

# 稲作だより

## ～第7号 水管理・中干し

### 茎数を確認し、中干しに入りましょう

6/18 現在の普及課の調査圃の生育は、概ね平年並みとなっています。管内の生育はバラツキが大きくなっています。必要な茎数を確保した圃場から中干しに入りましょう。

中干しの目安の茎数 20～25 本/株はこれくらいです。

地域 品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
村山市白鳥	R 3	27.9	233	7.3	35.4
	R 2	33.3	495	7.7	40.8
はえぬき	平 年	30.2	388	7.5	38.3
	平年比	-2.3	60	-0.2	-2.9
村山市河島	R 3	32.3	496	7.7	41.6
	R 2	34.9	490	7.4	43.5
つや姫	平 年	32.2	423	7.4	40.3
	平年比	0.1	117	0.3	1.3
村山市白鳥	R 3	27.3	344	7.1	40.5
	R 2	29.6	529	8.0	42.8
雪若丸	指 標	30.6	416	7.8	41.8
	指標比	-3.3	83	-0.7	-1.3



※「はえぬき」、「雪若丸」は移植時期がやや遅く、生育もやや遅い。

#### 1. 茎数が少ない圃場は水管理で分けつ促進！！

今発生する分けつの多くは、やがて穂となる有効茎です。分けつ発生の限界最低水温は 18～19℃程度で、分けつが順調に発生するには 25℃程度の水温が必要とされています。

- ①茎数不足 → 水深2～3cmの浅水管理、夜間や早朝に水を入れる。
- ②土壌の”ワキ”や葉色の低下 → すぐに落水(夜間)し、水交換する。

#### 2. 生育が旺盛な圃場は作溝・中干しで生育量の調整を！

中干し開始の晩限目安は、6月30日頃(8.5～9.0葉期)です。適期・適量の穂肥が出来る稲姿となるよう、“しっかり”と中干しを実施しましょう。

##### 【中干しの効果】

- 土壌に酸素が補給され、イネのうわ根が伸長する。
- 窒素の吸収を抑制して過剰な無効分けつの発生を抑える。
- 田面が締まり、地耐力が向上し、秋のコンバイン収穫が効率的に行える。

##### 【作溝の効果】

- 中干しの効果が高まり、水のかけ引きがより短時間で行えるようになる。

##### 【中干しの目安】

- 次の表でm<sup>2</sup>当り茎数を確認。450本以上なら、速やかに中干しを開始する。
- 中干しの程度は、田面に小ヒビが入り、歩ける(足跡が残る)程度とする。

－裏面に続く－

平均本数/株	m <sup>2</sup> 当たり莖数(本)		
	70株植え 21.2株/m <sup>2</sup> 株間15.7cm	65株植え 19.7株/m <sup>2</sup> 株間17.0cm	60株植え 18.2株/m <sup>2</sup> 株間18.3cm
20本	424	394	364
22本	466	433	400
24本	509	473	437
26本	551	512	473
28本	594	552	510
30本	636	591	546

#### 【中干し後の水管理】

○中干し後は、走り水とし、飽水管理(足跡に水が残る)程度とする。

○その後、徐々に間断かん水に切り替える。

※2湛2落(2日間湛水・2日間落水)または2湛3落とする。用水の状況や土壌タイプ(粘質土壌なら2湛3落)に合わせて行いましょう。

### 3. いもち病、斑点米カメムシ類対策

#### (1)梅雨は「いもち」の発生に注意！！

最低気温が20℃を超える日が続くと“葉いもち”拡大の恐れがあります。取置き苗で平年より早いいもち病が発生しています。感染が拡大する前に直ちに処分をしましょう。村山地域の本田でも葉いもちが発生しています。田を見回り、見つけたらすぐ防除を！！

#### (2)斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」予想！！

昨年も発生が多かったため畦畔・農道等の継続的な草刈りで、カメムシの生息しにくい環境を整えましょう。特に穂のつくイネ科雑草はカメムシのエサになります。穂をつける前に刈り取りましょう。



レッドトップ



イタリアンライグラス



オーチャードグラス

◎農作業安全を徹底しましょう！熱中症対策も忘れずに！！

水分、ミネラルを十分に補給。こまめに休憩をとりましょう